

インターバンクの声（2016年5月30日）

金曜日のニューヨーク市場の早朝に発表された米第1・四半期GDP改定値は、年率換算で前期比0.8%増と速報値よりも改善したが、市場予想よりも若干悪かった。普段であればもう少しドル売りの反応が大きくなっていたかも知れないが、この日は数時間後にイエレン米連邦準備理事会（FRB）議長の講演が控えていたこともあって、直ぐにドルの買い戻しも入っていた。さらに月曜日のロンドン市場がバンク・ホリデー、ニューヨーク市場がメモリアル・デーのため休場となるので、インターバンクや投資家の半数程度は元々のポジションを小さくしていたことも影響していたようだ。その後、イエレン議長は、「米国経済は改善が続いており、今後数ヵ月以内に利上げするのが適切だろう」と発言、ドル円は110円手前から110円中盤までドルが買われた。ドルが上昇したと言っても、結局金曜日も過去10日間ほどのドルの高値を超えることは出来ず、6月か7月の利上げについては依然、懐疑的な見方も根強いことをうかがわせた。イエレン議長をはじめ、FRB高官は利上げへの判断にはデータが重要としており、週末の雇用統計を含め、多くの主要指標の発表が予定されているので気が抜けない週になりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。